

同志社大学

2008年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2009年 3月 18日提出

所 属	職 名	氏 名
法	教授	西澤由隆
研 究 題 目	政治学的概念の世論調査による測定に関する認知科学的研究（科学研究費補助金（基盤研究（C））による研究）	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究では、社会科学のツールとしての世論調査について、認知科学的な視点からその問題点を再検討している。そして、そのことをつうじて、それがより信頼性の高いツールとして応用が可能となるように、具体的な提言をすることを目的としている。</p> <p>より具体的には、世論調査におけるアンカリングの効果を今年度は検討した。</p> <p>アンカリングとは、世論調査で用いる調査票において、先の質問が、それに続く質問の回答に対して与える影響の1つで、評価項目が複数ある質問において、最初の評価項目で想起される「評価基準」が、それに続く項目に対する「評価基準」として固定される（同じものが繰り返し使われる、つまり、アンカーされる）ことを指している。</p> <p>これは、世論調査の設計上、重要な意味合いを持つ。評価項目の1番目に何を置くかによって、調査結果が変わってくることを意味しているからである。しかも、最近では、パソコンを利用したの調査が盛んとなってきているが、評価項目の表示順をランダムに変更することが可能となり、また、それが一般的となっており、そのことが、かえって事態を複雑にしている。</p> <p>今年度は、政治的な制度に対する信頼を測定する質問文を材料に、アンカリングの発生プロセスが異なると考えられる3種類の質問文を用意し、web調査によってその効果を確認した。</p> <p>データの納品が終わり、現在、その分析の準備を進めているところである。次年度には、その分析結果を踏まえて、より精度の高い質問文を提案し、重ねて、web調査でその効果の確認する予定である。</p>	